

「福井新元気宣言」推進に関する政策合意

私は、知事の政策スタッフとして、「福井新元気宣言」に掲げられた「元気な社会」、「元気な産業」、「元気な県土」、「元気な県政」の4つのビジョンを実現するため、県民の理解と参加を得ながら、責任を持って職務を遂行し、次に掲げる施策・事業について重点的に実施することを西川一誠知事と合意します。

平成22年4月

福井県知事 西川 一 誠

観光営業部長 五十嵐 嘉 也

I 22年度の基本方針

・新たな営業ルートの開拓

これまでの営業先に加えて、専門店やネットショップなど新しいチャネルの開拓、伝統産業の技術を活かしたインテリアなど新しい分野への展開を図ります。

また、民間企業の人脈等を活用し、東アジアの営業ネットワークづくりを進めます。

・全庁営業活動の拡大・強化

個別の営業案件に応じ、専門家や事業者、関係部局の職員でチームを編成し、商品開発や売込み活動を行います。

また、庁内の営業掲示板を設け、全ての職員が担当業務はもとより個人的な人脈や情報、知恵を営業活動に活かす全庁営業を強化します。

・営業資源の競争力向上と全国発信

戦国や幕末の歴史、白川文字学、恐竜、観光、伝統産業などの本県のような資源について、営業先（顧客）にとってより魅力があり、市場での競争力の高い「商品」づくりを行い、新たなPR手法を開拓して全国に発信します。

・ **日本をリードするふるさと政策の展開**

ふるさと納税情報センターにおいて、全国自治体の活用事例等を収集・発信することにより、日本のセンターとして福井発ふるさと納税制度の一層の普及、定着を図ります。

また、ふるさと帰住をさらに強力に推進するとともに、新たなふるさと政策を提案して全国をリードします。

Ⅱ 22年度の施策

〔重点営業戦略〕

・エリア別重点営業

地域に応じた重点的な営業活動を展開します。

パブリシティと広報PRについては、全国メディアが集中する首都圏において、イメージを浸透させる活動をさらに強化します。

また、観光については、本県への来訪者の多い関西圏と中京圏に重点をおいて、「うまい」「楽しい」など具体的な食やスポットを伝える誘客活動を行います。舞鶴若狭自動車道の無料化を契機とする誘客については、新たに兵庫、岡山方面での宣伝活動を展開します。

さらに、帰住者の増加が見込める中京圏においては、企業を中心にUターン、Iターンの働きかけを強めます。

・一点突破多面展開の営業活動

営業先の窓口セクションを起点に、他の部局やキーパーソンの紹介を受け、多様な営業活動を展開します。

具体的には、大学でのUターン促進と同時に、教員へのゼミ合宿や学会誘致など、営業内容を広げていきます。

また、企業に対しては、福井帰住情報の提供と併せて、顧客や社員向けへの観光誘客や県産品の宣伝、県内企業の技術情報の提供など総合的な営業活動を行います。

・東アジア市場の需要を取り込む営業

大手商社や進出民間企業の人脈などを活用し、東アジア市場の需要を取り込むビジネスネットワークづくりを進めます。また、本県と関係のある中国等のメディアに対して、観光誘客につながる番組制作を働きかけます。

東アジアから小松空港経由で送客を行う海外旅行エージェントに重点をおいて、福井につなげる旅行商品を売り込みます。

〔 2 2 年度の個別施策〕

1 営業成果のレベルアップ

◇ 「ブランド営業」政策【部局連携】

・ 戦略的な情報発信と商品力の強化

従来のパブリシティに加え、素材やターゲットとする顧客層に合わせてテレビ、新聞、出版、映画などを組み合わせ、より効果的な広告PRを展開します。

また、専門家や事業者との共同事業として、福井の伝統技術などを活用した商品開発や販売促進活動等を行い、新分野への販路開拓と売上げの拡大を目指します。

県全体でのパブリシティ広告費換算効果（平成21年度約14億円）	15億円
（うち恐竜、教育（白川文字学等）、歴史の広告費換算（うち東京事務所）	3.0億円
パブリシティ件数（平成21年度 368件）	400件
広告換算効果（平成21年度 6.4億円）	7.0億円
（うち大阪事務所）	
パブリシティ件数（平成21年度 205件）	230件
広告換算効果（平成21年度 1.2億円）	1.5億円
首都圏において福井県に訪れたいと思う人の割合（平成21年度 55.5%）	60%以上

・ 「恐竜」ブランドの全国発信

開館10周年を迎える恐竜博物館については、さらなる入館者増を目指します。映画や出版と連動した全国キャンペーンを行い、世界三大恐竜博物館として恐竜博物館の認知度を高めます。

また、恐竜関連産業の育成や恐竜ビジネスの展開を目指します。

恐竜博物館の入館者数	47万人
（平成21年度 43.8万人）	チャレンジ目標 50万人

・福井の歴史、文化を題材とした映画・小説等の実現

映画等誘致連絡会を通じて、県、市町、観光事業者等の連携を強化し、映画関係者への撮影候補地等の情報の提供、ロケーション支援などにより、全県的な体制で福井を題材とした映画やドラマの誘致を進めます。

また、幕末期を中心に、歴史文献、資料を作家等に提供し、福井を舞台とした小説の執筆を目指します。

福井を題材とした映画・小説等の実現	3 件
-------------------	-----

・白川静博士生誕 100 年における全国展開

ふくい南青山 291 において、立命館大学、市民グループと共同で開催している漢字講座を起点として、白川文字学の学習の輪を全国に広げていきます。また、白川文字学関連教材の出版プロジェクトなどを推進し、白川先生の業績や本県の活動を全国に発信します。

白川文字学発信のイベント参加者	20,000 人
-----------------	----------

◇「ふくい帰住」政策【部局連携】

・「ふるさと貢献」の促進

ふるさと納税については、本県との人的交流の多い関西・中京・北陸エリアに重点を置いて営業活動を行うことにより、前年度実績を上回る成果と全国トップクラスの継続を目指します。

また、寄付者にとって、より利用しやすい制度となるよう、年末調整で控除できる仕組みの実現などを他県と連携して国に強く働きかけ、「福井発ふるさと納税」の一層の普及、定着を図ります。

ふるさと納税寄付金の寄付額	75,000 千円
(平成 21 年度 68,098 千円)	チャレンジ目標 80,000 千円

・「ふるさと帰住」の促進

県外大学で学ぶ理系学生に対して県内ものづくり企業の魅力を体感できる機会を提供し、企業や学生の理解促進と雇用のミスマッチ解消を図ります。併せて、理系ゼミの合宿等の誘致を図ります。

新ふくい人については、定期相談会に加え、企業訪問を行い、福井の暮らしやすさをアピールするとともに県内企業が求めている人材とのマッチングなどを行います。

また、市町や民間事業者とも連携して、県外と県内の若者の出会いの場を提供し、結婚による定住につなげていくなど、福井への帰住を促進します。

これらを含め、新しいふるさと政策について、庁内に課題解決プロジェクトチームを設置して、検討、提案し、全国を先導していきます。

ふるさとふくいに帰住する人の数 （平成21年度1,017人）	20～22年度で2,975人
	（22年度1,050人の増）
チャレンジ目標 22年度1,100人の増	

2 地域を支え世界に広がる福井の産業

◇ ブランド複合型の観光産業

・周遊観光への誘客

舞鶴若狭自動車道の無料化を契機として、若狭から奥越・坂井地域等を巡るドライブコースをつくるなど、県内全域を周遊する新しい観光ルートにより宿泊客を増加させます。

さらに、滋賀県とは「お江」、岐阜県とは「杉原千畝」、石川県とは「温泉」、「小松空港」といった共通の観光資源を活かし、他県と連携した観光誘客を進めます。

観光客入込数 （平成21年 1,044万人）	1,060万人
	チャレンジ目標 1,070万人
観光消費額 （平成21年 824億円）	900億円
	チャレンジ目標 940億円

・観光地の競争力アップ

東尋坊や永平寺門前街など、市町や民間、地元住民が一体となって景観統一や美観向上、賑わいづくりを行う観光地に重点的な投資・支援を行い、観光地のレベルアップを進めます。

福井の歴史や文化、おもてなしのマナーを学ぶ講座を開催するとともに、観光客と接する機会の多い人々を対象にホスピタリティを高める認定制度を創設し、観光客のおもてなし向上を図ります。

福井の食材を使った新たなご当地グルメ、恐竜をモチーフとする人形やガラス細工など、福井ならではの新たな土産品の開発を進めます。

講座の参加者数	300人
新たな土産品等の開発数	3品

・教育旅行の推進

主に首都圏の高校について、修学旅行先を決める担当教員を対象とする教育旅行説明会を実施し、直接の誘致活動を関係団体と共同で進めます。

また、庁内に課題解決プロジェクトチームを設置し、都市部の子どもたちが、自然に学び、地域の人たちと交流するプランを企画し受け皿づくりを進めます。

県外からの教育旅行者数	20,000人
(平成21年 16,366人)	チャレンジ目標 24,000人

・コンベンションの誘致拡大

「エネルギー」、「健康長寿」など、本県が国際的・全国的にアピールできる点を活かして、国際会議や全国規模の会議を県を挙げて誘致します。また、県外大学の教員等に対し、役員となっている学会の誘致を働きかけます。

県内におけるコンベンション開催件数	210回
(平成21年度 196回)	チャレンジ目標 230回

・ 東アジアからの観光客の誘致

中国のテレビ局などに、本県の魅力をアピールする番組の制作・放映を働きかけ、海外における“ふくいブーム”づくりにつなげます。

また、海外の旅行エージェントに対し、県内観光事業者との共動による営業活動を行い、小松空港を利用する東アジアからの観光客を本県に呼び込みます。

外国人宿泊客数 (平成21年度 15,630人)	53,000人
-----------------------------	---------

◇地域の雇用とコミュニティを支える地場産業

・ 東アジア市場への販路拡大

商社や県人会など現地における民間ネットワークを活用した営業活動を行い、中国など東アジアにおける販路を拡大します。

また、伝統工芸である和紙、漆をホテルの内装材等として売り込むなど、新たな分野の海外進出を支援します。

新たな現地ビジネスパートナーの創出数 (平成19～21年度 累計 25件)	新規 10件
県の支援により東アジアに輸出を行う企業数 (平成19～21年度 累計 40社)	19～22年度で56社創出 (22年度新規 16社)
チャレンジ目標 新規 18社	

○ 4年間の目標数値

4年間(平成19～22年度)の施策を通じて次の目標の実現を目指します。

指標名	18年度の現状	21年度の現状	22年度の目標	22年度末までの目標
県の支援により新たに東アジアに輸出を行う企業数	155社 (平成17年)	3年間で40社 (21年度16社)	4年間で56社	4年間で 50社創出 ⇒56社創出
東アジアへの県内企業の輸出額	1,350億円 (平成18年)	22年度に調査 (20年度 1,323 億円)	1,750億円	1,750億円
観光客入込数(※)	985万人/年	1,044万人/年	1,060万人/年	1,060万人/年
観光消費額	825億円/年	824億円/年	900億円/年	900億円/年
県外からの教育旅行 (体験学習・合宿等)者数	6,627人/年	16,366人/年	20,000人/年	20,000人/年
外国人宿泊客数	—	15,630人/年	53,000/年	53,000人/年
コンベンションの開催回数	173回/年	196回/年	210回/年	200回/年 ⇒210回/年
首都圏において福井県を訪れたいと思う人の割合	—	55.5%	60%	48% ⇒60%
県立恐竜博物館の入館者数	29万人/年	43.8万人/年	47万人/年	45万人/年 ⇒47万人/年
福井で新たな生活を営む「新ふくい人」 (ふるさと帰住センターを通じて福井へ移住する者)	99人/年	3年間で579人 (21年度212人)	4年間で800人	4年間で770人 ⇒800人
ふるさとふくいに帰住する人の数	—	2年間で1,925人 (21年度 1,017人)	3年間で2,975人	20年度～ 22年度で 2,860人 ⇒2,975人

(※) は、「新元気宣言」に記載のある数値目標